

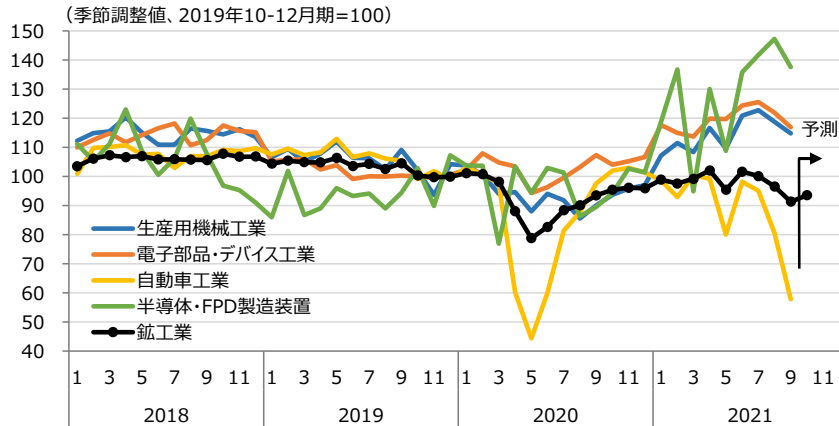
日本

鉱工業生産指数（2021年9月）

半導体・部品不足を背景に生産は3カ月連続で減少

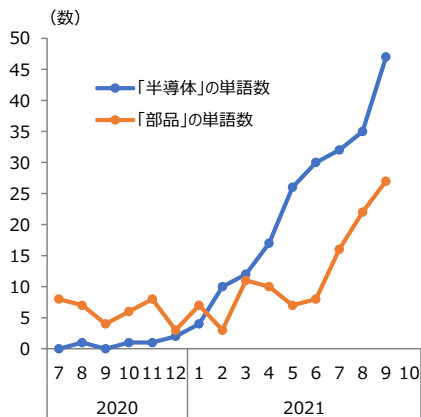
政策・経済センター
田中康就
03-6858-2717

1 鉱工業生産指数



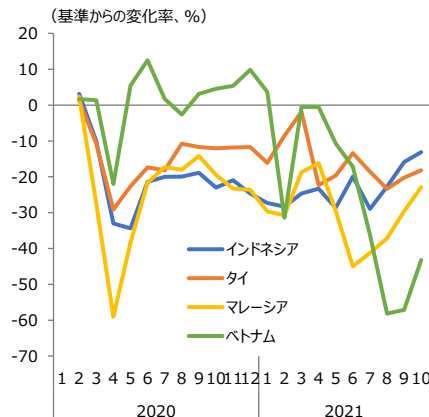
注：FPDはフラットパネルディスプレイ。予測は製造工業生産予測指数を経済産業省が補正した予測値で延長。
出所：経済産業省「鉱工業指数」「製造工業生産予測指数」

2 半導体・部品の不足感



注：景気判断理由集（現状）における単語数。
出所：内閣府「景気ウォッチャー調査」より三菱総合研究所作成

3 外出行動（仕事場、東南アジア）



注：月平均。21年10月は10月25日まで（ベトナムは10月20日まで）の平均。
出所：google「COVID-19 Community Mobility Reports」

評価ポイント

今回の結果

- 21年9月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比▲5.4%と、3カ月連続で低下（図表1）。その結果、21年7-9月期の生産は、季調済前期比▲3.7%と、20年4-6月期以来、5四半期ぶりの減少となった。
- 業種別では、自動車工業（季調済前月比▲28.2%）が2カ月連続で大幅に減少。20年5月以来の低水準となった。世界的な半導体需要の高まりや、夏場に新型コロナの感染が拡大した東南アジアの工場停止などを背景に、半導体や部品の不足感が強まり（図表2）、大幅な減産を余儀なくされた。
- 電子部品・デバイス工業（同▲4.1%）は2カ月連続で減少したものの、中国向け輸出の増加や5G、自動車の電動化に関する投資需要など旺盛な半導体需要を背景に高水準で推移した。半導体・FPD製造装置（同▲6.5%）も4ヶ月ぶりに減少したが、8月に過去最高水準を更新しており、高水準にある。
- 製造工業生産予測調査によると、10月の生産は、企業の予測値と実績値の平均的なズレを経済産業省が補正した値は、前月比+2.4%程度となっている。

基調判断と今後の流れ

- 生産指数は、半導体や部品の不足を背景に、減少傾向にある。
- 先行きの生産は、供給制約を背景に、弱い動きが続くと予想する。半導体不足は、短期的には解消を見込みにくい。半導体・FPD製造装置の生産が増加傾向にあるなど、半導体メーカー各社は生産力拡大を図っている模様だが、世界的な供給の拡大ペースは、需要の拡大ペースを下回るとみられる。一方、東南アジアでは、仕事場の人出が戻りつつある（図表3）。徐々に工場は通常稼働に復し、21年度後半にかけて部品不足は解消すると見込む。
- 先行きのリスクは、①冬場にかけての感染急拡大による経済活動抑制の再強化、②半導体・部品不足の長期化、③電力不足や債務問題を抱える中国経済の行方、などが挙げられる。